## 学習・教育到達目標に到達するための授業科目の流れ(機械工学科→MSコース R4入学) 機械工学科4年 前期 後期 機械工学科5年 前期 後期 機械工学科3年 □ 数分積分Ⅱ → 数分積分回 □ 応用数字 I A 応用数字 I B 応用数字 I B 応用数字 I B 応用数字 I B 応用解析Ⅰ 応用解析Ⅱ 数学演習Ⅱ テクニカルドローイング 設計製図 I A 設計製図 I B 設計製図 I B 機械設計法 I 医工学 計測概論(B群) 計算機援用工学 → 力学基礎 I 機構学 材料力学 I A 情報リテラシー ▶ システム設計学 力学基礎 I 先端材料工学 材料学I 材料学Ⅱ 加工学Ⅱ → 近代物理学 化学IA 化学IB 化学IIA 化学IIB 卒業研究 流れ学Ⅰ 流れ学Ⅱ 流体工学 流体力学 流体工学特論 情報リテラシー マリンエンジニアリング(C群) 熟力学Ⅰ 熱力学Ⅱ 力学基礎Ⅱ 熟工学 ▼ エネルギー工学 ▼ エネルギー環境学 ▼ プラント工学 材料学Ⅱ 材料学Ⅱ 材料力学ⅡA 材料力学ⅡB 材料力学特論Ⅱ 材料力学特論Ⅱ 加工学Ⅰ 加工学Ⅱ 建投振動学(D群) 計震工学(D群) 知能機械工学 制御工学 I 制御工学 I → 知識情報工学 機構学 ディジタル電子回路(B群) 電気工学Ⅱ 応用物理Ⅰ 応用物理Ⅱ 電気工学 I 電気機器 I (B群) 電磁気計測(C群) 通信工学(A群) 電気機器 I (B群) ▶ 応用測量学 I (C群) 建築論 II (C群) 建築論 I (B群) 創造演習 創造設計製作 システム工学(A群) インターンシップ インターンシップ | 物理IA | 物理IB | 物理IA | 物理IB | 化学IA | 化学IB | 化学IA | 化学IB | 機械工学実験Ⅰ 工作実習 I 按計製図 I A 按計製図 I B 工作実習1 → 機械工学実験 II 卒業研究 入門機械電気電子情報工学 日本文化論 宗教と「こころ」I ③ 宗教と「こころ」I ④ 国際金融論 I ④ | ドイツ文化論 I ⑤ | ドイツ文化論 I ⑥ | 現代社会と宗教 I ⑥ | 現代社会と宗教 I ⑥ | → 科学と社会 技術者倫理 人間論Ⅱ → 人間論Ⅱ 経済学 地理 哲学法学 地域学 I ⑤ 地域学 I ⑥ 現代日本の政治・経済と法 I ⑥ 現代日本の政治・経済と法 I ⑥ | 総合英語 I B | に関する I 総合英語VA総合英語VA → 英語演習 I → 英語演習 I アート&デザイン Ⅰ アート&デザイン Ⅱ 工業英語 ドイツ語 I ③ 中国語 I ③ 日本語C ドイツ語 I ④ 中国語 I ④ 日本語D 韓国語 I ⑤ 日本語E 日本語A 日本語B 保健体育Ⅱ 保健体育皿 保健体育Ⅳ 日本史 世界史Ⅰ 世界史Ⅱ → 科学と社会 技術者倫理 地理 哲学法学 防災リテラシー 創造演習 環境工学 I A(A群) 環境工学 I B(A群) ▼環境工学特論 特別実験 機械工学実験 I ▶ 機械工学実験 Ⅱ 特別研究基礎 → 特別研究 卒業研究 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 計算機援用工学 → 入門機械電気電子情報工学 設計製図Ⅲ 画像処理(C群\*) 情報学(D群\*) 数值計算法(A群) シミュレーション工学(D群) 数值解析 I (B群) 建設振動学(D群) 工学基礎 創造演習 機械工学実験I ◆特別演習 ▶ 機械工学実験 Ⅱ 入門機械実習 工作実習1 工作実習Ⅱ 創造設計製作 物理ⅠⅠ 物理ⅡⅠ 物理ⅡⅠ

## 学習·教育到達目標

(A) 自然科学と工学の基礎を身につける。 (B) 専門分野の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる。

(C) 修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。(D) 実験・実習・演習により現象の理解を深め、実践力を身につける。

(E) 技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

(F) 技術が自然や社会に与える影響を理解し、技術者としての倫理観を身につける。 (d) 護極の投来・報告などを適切にまため、免表できる。 (H) コンピュータを技術の実践に活用できる。 (I) 責任を自覚し、互いに協力し合い、チームの目的達成に貢献できる。

## (i)高度な数学の知識と幅広い工学の基礎知識を修得し、専門分野に応用することができ

ii)機械工学分野の深い学識を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。

)機械工学分野の応用的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得し 犠技術をエンジニアリングの実務に活用できる。 (w) 修得した人文・社会科学の知識により広い視野と国際感覚を持ち、技術者として倫理的に行動することができる。

v)技術者としての実践力、協働力を身につけ、地域、社会等の課題の発見と解決に対して、修得した知識・技術を融合して創造的に取り組むことができる。また、その成果を発表。